

| | | | | | |
|---------------|--|---------------|----------|---------|-------|
| 学校教育目標 | 南瀬谷中学校では、家庭や地域と共に ○社会の一員として礼儀を重んじ、物事の善悪を判断できる力<徳><公> ○人の話を素直に聞き、積極的に学び視野を広げることができる力<知><開> ○自分や人の生命を大切に、規律正しい生活を守ることができる力<体> が身に付くことを目指します。 | | | | |
| | 学校概要 | 創立 54 周年 | 学校長 瀬田川聡 | 副校長 小谷広 | 3 学期制 |
| 児童生徒数: 512 人 | | 主な関係校: 南瀬谷小学校 | | | |

| | | |
|-----------------------------|-----------------------|---|
| 教育課程全体で育成を目指す資質・能力 | 中ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| <問題発見・解決能力> <自分づくりに関する力> | 南瀬谷中 南瀬谷小学校・南瀬谷中学校 | ○自他の良さがわかり、ともに学び合う子ども ○主体的に物事に取り組める子ども ・「魅力ある学校づくり」の取組の推進 (生徒の「主体性」の育成、教職員の意識改革と「同僚性」の向上) ・「目指す子ども像」をテーマとした、小中合同研究授業、協議会の実施(年2回) ・地域(保護者)の教育力を活かした、小中協働による「地域交流学習会」の実施 ・小中一貫カリキュラム作成を視野に入れた、目指す資質能力の明確化と具現化 |

| | |
|---------------|---|
| 中期取組目標 | 「変革と前進」をスローガンに① 生徒の「豊かな心」の醸成、「自立」に向け判断し行動できる力の育成を目指します。 ② 全職員がお互いを大切にでき、あたたかく、まとまりと意欲にあふれる学校組織の充実を目指します。 ・「魅力ある学校づくり」を中心にカリキュラム・マネジメントを推進し、「主体性」の育成を目指すとともに、教師の意識改革を図り、生徒の学び合い等、積極的な授業改善に取り組めます。 ・人間関係づくりや学習における基礎基本を活かして、自立の土台となる、自己肯定感・有用感の醸成及び主体的・協同的な学びの実現に努めます。 |
|---------------|---|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|-------------------------|--|
| 学力向上(生きる基礎基本の定着) | ①自立に向けた基礎学力の定着。授業改善を進めるとともに、朝学習、学習相談等を中心に補充的指導の充実を図る。②主体的、協同的で深い学びのある授業の構築。新学習指導要領実施に向けてカリマネを推進し、教職員の積極的な研究・研修の充実を図り、授業改善に努める。 |
| 担当 カリマネ担当・学習指導部 | |
| 豊かな心 | ①昨年度の学びを土台にしてより充実した道徳授業をめざし、生徒の内面的な成長につなげる。②気持ちのよい挨拶の習慣化等、良好な人間関係づくりを支援する。③学校行事等を通して、生徒の主体的な活動の場をを広げ、PDCAを重視しつつ、自己肯定感の育成に努める。 |
| 担当 生徒指導部・学習指導部・特活指導部 | |
| 健やかな体 | ①保健体育科の授業では、発達段階に合わせたトレーニングや体を動かす楽しさを実感できるカリキュラムを実践する。またグループ活動をより導入し、お互いを尊重して行動する力を充実させる。②食育の推進など、健全な体づくりに向けた主体性を育み、健康教育の充実を図る。 |
| 担当 保健安全指導部・保健体育科 | |
| 持続可能な地域連携と学校評価 | ①学校運営における様々な場面で、保護者・地域の理解と協力を得るため、ホームページ等を活用して、積極的に情報を発信し、地域に開かれた学校づくりを目指す。②学校運営協議会の設置に向けて、地域との円滑な連携・協働ができる組織づくりを目指す。 |
| 担当 教育課程委員会 | |
| 自分づくり(道徳・キャリア教育) | ①自己キャリアの形成について、自立する力を育てる(職業講話、職場体験、キャリア教育講演会の実施、自分づくりパスポート活用に向けての組織的な取組)。②「特別な教科道徳」の授業を改善し、自分を振り返る機会をつくり、生徒の内面的な成長につなげられるようにする。 |
| 担当 特活指導部・学習指導部 | |
| 特別支援教育 | ①個別支援級在籍生徒や保護者が安心できる学校づくりへの全職員の意識向上を図る。②一般級に在籍する特別な支援が必要な生徒への合理的配慮等、指導・支援の充実に向けて、指導計画を活用し、実践力を高める。 |
| 担当 特別支援教育委員会 | |
| 教育環境整備 | ①視聴覚機器の整備を進め、タブレットなどのICT機器を生徒や職員が有効に活用できる環境を整える。また、全職員が機器を授業づくりに活かす。②生徒全員が主体的に清掃に取り組み、公共物や環境を大切にすることを育てる。 |
| 担当 学習指導部・教育課程・教務 | |
| 魅力ある学校づくり | ①年4回の生徒意識調査アンケートと、職員研修を継続し、職員が自らの取組を振り返り、改善させるPDCAサイクルの習慣を定着させる。②アンケートの数値結果を共有することで、学級、学年の問題を全体の問題と捉える意識をもち、職員の同僚性を高める。 |
| 担当 生徒指導部 | |
| いじめへの対応 | ①全職員がいじめは絶対に許さず被害者の立場を大切にする指導を徹底するため、定期的にいじめ防止対策委員会を開催し、学校としての認知・指導の継続に努める。②教育相談や生活アンケートを定期的実施し、生徒の細やかな変化を見逃さないよう努め、学校全体で共有する。 |
| 担当 生徒指導部 | |
| 人材育成・組織運営(働き方改革) | ①若手教職員を中心とした人材育成充実に向けたOJTの活性化、及び教職員個々の学校経営への参画意識の向上を図る。②授業づくりや生徒とのふれあいに時間をとれるよう、働き方改革プロジェクトを組織的に進め、組織の改編や行事の精選も含め、振り返りをして、職場の環境を一層整える。 |
| 担当 働き方委員会 | |